

国際化学肥料ニュース (2015年9月)

肥料業界の2015年9月動態

- * 中国窒素肥料協会は「化学肥料業界の転換発展に関する指導意見」という要綱を発表し、2020年までに生産過剰となった化学肥料業界の厳しい環境を打破する狙いである。その要旨は下記の通りである。

生産能力の過剰状況を解消するために、2020年に窒素化学肥料生産能力6060万トン（実物量、以下同）、りん酸系肥料生産能力2400万トン、加里肥料生産能力880万トンを維持する。2014年現在の窒素化学肥料生産能力6000万トン、りん酸系化学肥料生産能力2350万トン、加里肥料生産能力677万トンに比べ、窒素とりん酸系化学肥料生産能力の増加を極力抑え、加里肥料だけは23%増である。また、天然ガスと無煙炭を原料とするアンモニア合成装置の新規着工及び湿法りん酸とそれを原料とするMAPとDAPの生産ラインの新規建設を認めない。

また、新規化学肥料の生産と普及に力を入れる。2020年に普通尿素の生産量を4000万トンから2000万トンに減らし、その代わりに緩効性尿素など付加価値の高い尿素1000万トンと尿素硝酸液肥料(UAN)1000万トンを生産する。また、硝酸系化成肥料生産能力を1500万トンに増強する。

- * 9月11日、インドIPL社の最新の尿素入札結果が公表した。応札総量78.4万トン、約45万トンは中国品、25万トンはイラン品。最低応札価格はKaraikal社のCFR274.33ドル/トンである。CFR280ドル/トン未満の応札量が約55万トン、その中に12万トンはイラン品、残りは中国品である。

- * モロッコのOCP社は、これからの2~3年以内に国際市場に向けて株式の公募を行う考えを漏らした。OCP社のCEO Mostafa Terrab氏は、OCPが国営企業ではあるが、競争力を高めるために、国際資本市場に開放し、ファンド資金を導入する必要があると述べた。

2014年、OCP社の化学肥料生産量が前年度より23%増の530万トンに達し、売上高も6.3%増の49億ドル、純利益が3.2億ドルに達した。現在、第3期の肥料生産ラインの拡張工事に2000万ドルを投資している。2025年までに40億ドルを投資して、りん酸肥料の生産能力をさらに拡大させる。

- * 世界経済の悪影響を受け、農産物の価格低迷にも関連して、7月から化学肥料の国際市場価格が急落した。尿素が6月のFOB価格280~300ドル/トンから9月中旬の250ドル/トンまで低下した。インドIPLの9月11日に開札された尿素の入札結果はFOB

260～265 ドル／トンに相当するものである。中東や黒海、バルト海の尿素がさらに安く、9月中旬現在 FOB 250 ドル／トンで提示されている。また、ブラジルとアメリカが10月に輸入予定の中東産尿素の FOB 価格も 250 ドル／トン前後とされている。

一方、りん安は最大需要家のインドとブラジルが現地通貨の為替レートの低下で、今年の輸入量が大きく減るのではないかと予測され、DAP と MAP の国際市場価格が下落した。9月中旬現在、DAP の FOB 価格が 450～460 ドル／トン、MAP も 440～450 ドル／トンで年初より 20～30 ドル安くなっている。

塩化加里もインド、中国、東南アジアの需要減少で、価格が低迷している。ロシア Uralkali 社の最新予測では、2015 年の世界加里肥料需要量が 5,800 万トンしかなく、2014 年より 500 万トンも減少するだろう。すでに 7 月から塩化加里のスポット価格が年度契約より 10～20 ドル／トン安くなっている状況が続いている。2016 年はさらに下落だろうと推測される。

- * 中国税関の統計データによれば、中国 8 月の DAP 輸出量が 75.05 万トン、平均 FOB 価格 460 ドル／トン。輸出関税の改正で 1～8 月の DAP 輸出量が昨年同期より 83.47% 増の 432.67 万トン、主な輸出先はインド、アメリカ、パキスタン、東南アジアである。

また、中国 8 月の MAP 輸出量 23.79 万トン、平均 FOB 価格 427 ドル／トン。輸出関税の改正で 1～8 月の MAP 輸出量が昨年同期より 53.05% 増の 186.95 万トン。

大手各社の営業業績

- * オーストラリアの West Farmers 社は昨年 8 月～今年 7 月の 1 年間の業績を公表した。売上高が 15.1% 増の 8.4 億ドル、粗利が 9.9% 増の 3.45 億ドルであった。主力製品の硝安生産量 78 万トン、アンモニア生産量 26 万トンであった。
- * モロッコのりん酸塩メーカー OCP 社は 2015 年上半期の業績を公表した。売上高 25 億ドル、営業利益が 8.9 億ドルである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * サウジアラビアの Maaden 社は、同じサウジアラビアの Sabic 社との合弁会社 Maaden りん酸肥料社(MPC)に 30 億ドルを投入してりん安の生産設備を拡張する計画である。その資金は借金で賄う予定である。

MPC 社は 2007 年 3 月に設立し、Maaden 社は 70%、Sabic 社は 30% の株式を持っている。すでに 55.2 億ドルを投資して、サウジアラビア北部の Al Jalamid りん鉱山と東海岸の Ras Al Khair に硫酸、アンモニア、りん酸、DAP/MAP 等のりん安生産能力 300 万トン／年の工場を完成した。製品のりん安を全量輸出に供する。今回の生産設備拡張が完成後、DAP/MAP 生産能力が 500 万トン／年に増強する。

- * ベトナム新聞の報道によれば、ベトナム国営の **Vinachem** 社はラオス **Khammouan** 州 **Nongbok** 県にある加里鉍山とその精製工場の建設を始めた。投資額 **5.22** 億ドル、塩化加里生産能力 **32** 万トン／年。
- * カナダの **Cominco** 社は、アフリカコンゴ共和国の **Hinda** りん鉍山プロジェクトのフェージビリティ・スタディを完成した。その報告書によれば、当該りん鉍山のりん資源量（**P2O5** 換算）**470** 万トン、りん鉍石の平均 **P2O5** 含有量 **11.4%**、完成後、**26** ヶ月以内に投資を回収できると書いている。
- * インドネシアの **Petrokimia** 社はアンモニアと尿素の生産ラインの新設を計画する。**2018** 年着工、投資額約 **1** 億ドル。その内 **9000** 万ドルはインドネシア国有銀行（**BRI**）からの借金で賄う。完成後、**Petrokimia** 社のアンモニア生産能力が **66** 万トンに達し、その内の **44** 万トンは化成肥料の生産に供する。残りのアンモニアは尿素生産に供する予定で、尿素生産能力が **57** 万トンになる。

その他

- * サウジアラビアの **MPC** 社は **8** 月 **21** 日から **Ras Al Khair** のアンモニア合成ラインを臨時停止した。理由は熱交換システムの点検と部品交換である。停止期間は **2~3** 週間の予定で、**DAP** の生産に及ぼす影響が不明である。
- * ロシアの **Uralkali** 社はロンドン証券取引所から撤退することを考えている。すでに今年の **3~4** 月に計 **11.17** 億ドルを投入して、自社株を買い戻した。今回はさらに **10~15** 億ドルの自社株を買い戻すことを計画している。もし、自社株の買い戻しが実行されれば、ロンドン証券取引所から撤退することが確実となる。
- * **9** 月末、**Uralkali** 社は年内に **22.6** 億ドルを投じて自社株を買い戻すことを正式に発表した。買い戻しの株数は発行済み株式の約 **24%** に達し、買い戻しが完了後、流通株が **25%** 未満となり、ロンドン証券取引所から退場することが確実となる。
 買い戻しの株式の半分は中国国営の中国投資有限責任公司（**CIC**）が所有しているものと推測される。**2013** 年、中国投資有限責任会社が転換社債を株式に変更して、**Uralkali** 社の発行済み株式の **12.5%** を取得し、当時では第 **2** 位の株主となった。しかし、**Uralkali** 社が **2013** 年 **7** 月に **BCP** から脱退することにより加里肥料の国際価格が下落し、**Uralkali** 社の株式も急落した。中国投資有限責任会社が **20** 億ドルで取得した株式が現在の市価では **10** 億ドル未満となっている。

Uralkali 社がロンドン証券取引所から退場すれば、ロシアの Uralchem 社に買収されることがほぼ確実となる。現在、Uralchem 社が Uralkali 社の 20%株式を所有し、最大の株主である。また、7月にロシア外国貿易銀行 (VTB Bank) から 15 億ドルの融資の約束を取付け、Onexim グループが持っている Uralkali 社の約 20%の株式を買収する計画である。

- * カナダの PotashCorp 社がドイツの K+S 社に提出した買収提案は K+S 社に拒絶されたが、アメリカの投資銀行メリルリンチ (Merrill Lynch) を通して間接的に買収する試みをする。

メリルリンチはモルガン・スタンレー、ドイツ銀行と一緒に第 3 者の立場で K+S 社に買収を応じるように要請する予定である。なお、今度の買収行動も拒絶される場合は、PotashCorp 社は K+S 社の取締役会を飛ばして、証券取引所で株式を直接買収する行動に出る可能性がある。

- * ウクライナの窒素肥料メーカーDnipro 社は 9 月 18 日からアンモニアと尿素の生産ラインの定期点検を行う。生産停止期間が約 30 日。

一方、9 月 21 日ウクライナの OPZ 社のアンモニアと尿素の生産ラインの定期点検が終了した。現在 OPZ 社の 2 本アンモニアと尿素の生産ラインが順調に稼働している。